

世界の仲間のためにできること(第6学年)

奈良教育大学教職大学院 竹田隼也

(1)単元名

「世界の仲間のためにできること」(小学校第6学年)

(2)単元の概要

本単元では、日本一の海軍工場となった広島県呉市をはじめ、日本の子どもが戦後の復興のために受けてきた支援を切り口に、国際社会の一員であることを自覚し、よりよい社会づくりのために自分たちにできることを考える児童の育成をねらいとしている。

明治22年(1889年)、呉鎮守府が開庁し、広島県呉市は国を守り、船をつくる拠点となった。太平洋戦争の際には当時世界最大の主砲を搭載した戦艦「大和」が建造されるなど工場として栄えたまちであったこともあり、大規模な空襲を6回受けるなど、大きな被害を出した。戦後は昭和31年(1956年)まで英連邦軍が進駐していた。海軍の工場であった場所の大部分は占領軍のもとにあり自由に使えず、海軍工場として栄えたまちは失業者のまちとなった。

このような状況の中で、呉市の子どものために英連邦軍はチョコレートなどのお菓子を分け与えるなどの交流をしていた。日本ではどこでも食糧難であったように、失業者の多かった呉市もまた食糧難に悩まされていた。英連邦軍が目の前の子どものような状況でお菓子を分け与えることの意味は大きだろう。また、昭和24年(1949年)からユニセフによる給食支援が行われた。食糧難の中でこのように子どもに食料を与えることは復興への大きな一歩であったのではないだろうか。

以上のような支援を受け、日本は敗戦国から経済大国に発展していった。現在は支援を受ける立場から支援を行う立場になり、発展途上国に対して様々な支援を行っている。日本が支援を行っている国や地域について調べる活動を行い、支援を行っているのは政府や大人だけではないことに気づかせたい。小学生にも行える支援は様々あり、それらは自分たちと年齢の近い子どもの命が救われることに目を向けさせたい。【責任性】

ユニセフや24時間テレビなどで集められた募金の金額から、一人でやろうとすると小さな力であっても大勢の力を集めることで大きな力になることに気づかせ、困難を抱えながら生活している世界の子どものためにできる支援で自分たちにもできることはないか考えさせたい。また、調べたことや自分たちにできる取り組みを全校に発信し、学年だけでなく、全校児童に協力を呼び掛ける。

これらの活動を最後に振り返り、一人ひとりでは小さな力であっても、多くの人が協力することで大きな力になることを実感させたい。【連携性】

(3)ESD の視点の明確化

【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念V 連携性

様々な困難を抱えながら生活をしている世界の子どものために一人でできることは限られているが、学級全体や学校全体で協力することによって大きな力になること

構成概念VI 責任性

自分たち一人一人が国際社会に生きる一員であることに気づき、よりよい社会の実現に向けて行動をすること

(4)単元の目標(重視する能力や態度)

《関連》

国際社会の一員であることに気づき、困難を抱えながら生活をしている人のために自分たちにできることを考え、行動しようとする。

【関心・意欲・態度】

《未来》

様々な困難を抱えながら生活をしている世界の子どものために自分たちにできることを計画、発信、実行することができる。

【思考・判断・表現】

《参加》

様々な困難を抱えながら生活している世界の子どもについて調べ、現状や課題を読み取ることができる。

【技能】

《多面》



様々な困難を抱えながら生活している世界の子どもについて、現状や課題がわかる。

【知識・理解】

(5)評価規準

関連 関心・意欲・態度	未来 思考・判断・表現	参加 技能	多面 知識・理解
①国際社会の一員であることを自覚し、様々な困難を抱えながら生活をしている世界の子どもに役立ちたいと考えている。	①様々な困難を抱えながら生活をしている世界の子どものためにできることを考えている。 ②自分たちにできることを在校生に発信し、行動に移している。	①様々な困難を抱えながら生活をしている世界の子どもの情報を集め、読み取っている。	①様々な困難を抱えながら生活をしている世界の子どもの現状がわかる。

(6)単元の計画(全 10 時間)

時	主な学習活動と内容	◇教師の支援 ◆主な評価
1	<p>【日本の子どもが受けた外国からの支援について知ろう】</p> <p>○教科書や資料集を提示し、日本の子どもが受けた外国からの支援について知る。</p> <ul style="list-style-type: none">・戦後、子どもが進駐軍の人から食べ物を貰っていた。・ユニセフから学校給食の援助を貰っていた。	<p>◇教科書や資料集、図書、新聞記事、インターネットなどで情報を提示する。</p> <p>◇日本はこれまで外国から様々な支援を受けていることに気づかせる。</p> <div data-bbox="743 600 1426 1003"><p>国際 NGO から物資を受け取る子ども (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/hanashi/story/1_2.html)</p></div> <p>◆困っている人への支援について関心をもつ。《関連》</p>
2 3 4 5 6	<p>【日本が行っている世界の子どもへの支援について調べよう】</p> <p>○様々な困難を抱えながら生活している世界の子どもについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none">・病気・飢餓・災害・学校に通えない <p>(・戦争) 　　　　　　　　　　など</p> <p>○日本が行っている世界の子どもへの支援について調べる。</p> <p>・ワクチンを届ける</p> <p>・医療支援を行う</p> <p>・学校をつくる</p> <p>・道の整備を行う 　　　　　　など</p>	<p>◇図書室や PC ルームを活用する。</p> <div data-bbox="743 1216 1426 1619"><p>貧困地域に住む子ども (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyu/index.html)</p></div> <p>◆様々な困難を抱えながら生活している子どもの現状について調べ、読み取っている。《参加》</p> <p>◇JICA や ODA、NGO など出てこなければ紹介する。</p> <p>(◇戦争への支援として物資の輸送や地雷、機雷の除去作業なども挙げられるが、憲法問題に関わる部分でもあるため大きく取り上げることは避ける。)</p>

	<p>○自分たちにできる支援について調べ、計画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募金活動を行う ・書き損じはがきを集める ・衣類を送る <p style="text-align: right;">など</p>	<p>◆様々な困難を抱えながら生活している子どもの現状を知る。《多面》</p> <p>◇一人では支援できないことでも多くの人が少しずつ行えば大きな支援ができることに気づかせ、全校に協力を呼び掛けるようにする。</p> <p>◆世界の子どものために自分たちにできることを考えている。《未来》</p>
7 8 9	<p>【計画したことを全校に発信しよう】</p> <p>○全校に向けて、調べたことを発信し、活動への協力を呼び掛ける。</p>	<p>◆自分たちにできることを在校生に発信し、行動に移している。《未来》</p>
10	<p>【自分たちの行ったことについて振り返ろう】</p> <p>○この活動を通して考えたことやわかったことを振り返り、共有する。</p>	<p>◆国際社会の一員であることを自覚している。《関連》</p>

参考文献等

- ・毎日新聞（2015年2月24日11面）【中東の機雷掃海】現場感覚を議論に生かせ
- ・呉市教育委員会(2005) 『子どもたちに語り継ぐ 呉の歴史絵本 日本の近代化と戦後の復興を支えたまち』
- ・外務省 HP (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/>)